

新編水滸畫傳

五編

四

875  
44





明 875  
 號 444  
 卷

神書佛書醫書國書  
 繪本年中新古賣買  
 手遊いふく法なれ間  
 所記文了れとれと士

後後町三休指西入  
 河内屋孫玄衛

新編水滸畫傳卷之四拾四

東武 高井蘭山翁 譯編

明治五年  
 二月十日  
 購求

○宋公明三祝家庄とあり

と始先。一時に豪傑と多。汝等のも。外に具用。軍死。内は  
 備と宋公明祝家庄の武勇烈しきに攻め。おれに病尉遲孫立兄弟  
 孫立が計と施し。たれど三を兵と起。中間に放軍多。りも。終る。早急の  
 謀畧。果小。あつて。祝家庄と攻め。宋公明に莊内小。入。廳上に坐し。たれど  
 法の。既。於。未。來。て。功。を。執。は。生。擒。の。軍。士。凡。又。百。餘。人。と。記。し。そ。外。を。精。を  
 汝。の。事。又。十。万。石。小。竹。り。衣。甲。弓。箭。刀。槍。羊。と。汝。の。も。教。と。授。け。給。は。宋  
 公。明。と。言。て。大。小。悦。び。け。回。虎。英。雄。の。力。を。借。て。金。を。借。と。汝。の。も。只。借。は。は  
 樂。廷。玉。万。夫。不。為。の。勇。を。と。又。全。軍。の。故。小。園。を。孔。玄。不。殺。え。い。ま。ん。

新編水滸畫傳卷之四拾四



滅小希五の豪傑ありしと一向嘆息し乃知に忠旋風李逵扈家村  
 と焼拂て首を献すと報しんべ。宋江大少驚て云前日扈成自ら某一我  
 小將んと約すに李逵喜りに彼莊を焼しんべ故ぞとて於て李逵  
 て舟入るに李逵へ全身血小深二ツの斧と腰小挿し。亦ちに宋江一茶に  
 於て跪さきしに聲を勵し云り。祝龍祝彪ハ宋江を殺しぬ独扈  
 成を撃りししれ。扈家莊を焼拂て扈太公をいひに一報の眷族ども  
 於て歎きたり是故に宋江速來て功を献しあり宋江是とて呼て忽ち  
 怒て云祝龍ハ汝が殺しる証見多し。宋江いんぞ汝が殺さんや李逵曰宋江に  
 祝彪を過て扈家莊小馳ぬる不。一夫妻が足扈成。乃祝彪とけ殺て  
 親方の陣に引せら。某途小於これ小遇刺祝彪が刃と刺。扈成も  
 共に殺さんとす。知小彼忙し逃て行向と飛しぬ。我是を赤漏し。

只彼扈家莊を焼拂ひ。教内一族を斬りぬ。宋江大少責て云汝が命  
 とせて扈家莊を焼せしや汝も知るく扈成前日自ら來て我  
 小將とんと約せし。汝いんぞ擅に彼が一家を殺す。是我の號令を違  
 く不。李逵がいり長兄何ぞやあれ申す。前日扈太公女兒一夫妻を死て。  
 已に宋江を害せんとせり。あかきに我是を殺せり。宋江あど一夫妻を昏礼  
 の儀も憫するに。や文人妻舅の事と思ひ申す。宋江責ていす。汝が  
 札り身云と云と云ん我豈敢て一夫妻を娶るの事あるんや。我今一夫  
 妻と又太公に於て介抱す。皆へ宋江宋江を不存あり。汝今日我號令に  
 違ぬる軍中の法小依て首を刺しぬ。只是祝龍祝彪を殺し。乃  
 功に替て。先は宋江の罪を免は。宋江を以て馬命を背へ。軍中の法及  
 と免は。宋江は忠旋風笑ていす。我今戦功を奪はれぬ。又多く款を殺し



杖く見るとも却て勇と見えり。形も前に軍師長学究人を引く  
 張亦り即ち宋江小見え候びと候しられ。宋江又兵用と共に商議して  
 祝家莊の人民ホと追散し。村と清めんと欲し多勢を不出て  
 彼鍾離老翁が住りあり。軍路徑と教へると告て云らる。此村  
 の内よりと教へる大恩人鍾離老翁立るれ。ありに民間と却ひ彼が  
 と懐ひぬ。宋江とて告て大感謝し。不遠を尋て老翁  
 と呼寄別ち対面して云らる。おはは村にあり。我今村中を燒拂て  
 居民と追散せられ。汝一人が家に居て。村中の民衆と懐ひ  
 とて。又一包の金と手へて。路と教へ功と謝しられ。老翁再三  
 宋江とねり。宋江が云我今幸ひに祝家莊の一族とあつて。村中の  
 一害と除にぬ。彼が亦不行へ。不の精究て多し。我是を村中に教へし。

每家小一石づと恵む。鍾離老翁と始と。各一方の處に粟一石  
 と施し。多餘の金銀錢杖。兵に支給。軍士は多くこれと給て。山  
 陣の軍用に使へり。比般祝家莊と彼て。城下の兵糧貯合五十万石  
 と記しぬ。宋江見とて大感謝し。所日法既候。不号令と傳へて。汝陳の  
 用意と測し。め。そ。夜。又。更。の方。例。不。三。軍。と。起。して。已。に。祝。家。莊。と  
 赤出。六。村。中。の。百。姓。老。と。挂。け。切。と。引。流。皆。赤。出。て。宋。江。と。ね  
 附。り。宋。江。は。え。と。三。子。に。分。て。使。と。列。子。軍。後。軍。一。度。不。世。と。凱。歌  
 と。唱。ひ。り。又。樸。天。勝。李。意。の。箭。底。已。に。疼。て。病。平。復。と。言。う。も。  
 兵。門。を。突。いて。莊。上。に。あり。暗。に。人。と。馳。て。祝。家。莊。の。残。ひ。と。伺。し。め。祝  
 家。が。残。ひ。負。る。消。息。と。告。て。私。に。使。く。思。ひ。居。る。如。に。家人。來。て。報。し  
 る。高。州。の。知。府。は。十。人。の。歩。軍。を。引。て。莊。赤。出。り。あ。ひ。ぬ。李。意。こ。ん





宋江明鍾離  
老人小感  
賞と  
あふる



とぞて忙々々々杜真と出でて。莊門を突しめ。遂に迎へて廳上に坐り  
 六李愈恭。一々知府と語て中央に坐り。めま。孔目と語て。後儀に  
 坐り。め。階の下には。虞候。前級。ホ袖と列ねて坐り。少り。李愈已に  
 知府と語。一。早て。廳前。小跪。一。知小。知府。先。李愈。に。同て。云。祝家。莊  
 今。殺。軍。に。輸。する。次。筈。い。う。ん。李愈。答。て。云。宋。先。小。祝。彪。小。臂。を。射。し。れ。  
 多。日。器。瓶。養。生。一。て。致。不。あり。若。て。莊。外。小。出。ざ。り。し。由。急。宋。先。小。祝。の。虚。實  
 と。あ。ら。ざ。知。府。云。汝。ん。ぞ。我。と。敵。や。今。已。に。祝。家。莊。より。汝。が。と。と。告。云  
 何。の。汝。暗。に。梁。山。泊。の。強。盜。ホ。と。通。り。一。擅。に。彼。ホ。と。引。て。祝。家。莊。と。歩。せ  
 若。と。之。汝。必。ず。抵。頼。と。う。ん。李愈。云。宋。先。小。と。り。と。只。も。宋。先。法。度  
 と。知。れ。り。豈。敢。て。盜。賊。と。通。り。せん。や。知。府。云。我。汝。が。云。と。信。じ。が。じ。我。先  
 汝。と。府。裡。一。携。へ。回。り。詳。に。查。照。す。べ。一。と。て。前。級。ホ。に。命。し。ら。れ。ば。前。級

ホ。先。一。李愈。を。捉。へ。索。と。掛。る。に。知。府。又。同。て。云。老。管。家。の。杜。真。と。り  
 志。ハ。何。れ。不。在。や。杜。真。答。て。云。別。宋。杜。真。云。と。云。知。府。云。祝。家。莊。の  
 志。在。汝。が。と。と。府。一。汝。も。軍。一。と。索。と。掛。て。州。裡。小。來。れ。と。引。く  
 是。も。絆。を。知。府。移。と。至。後。女。人。と。高。先。引。し。め。て。李。家。莊。と。歩  
 一。終。二。三。十。里。絆。小。走。て。候。と。る。に。宋。江。林。冲。元。榮。楊。雄。石。秀。ホ  
 人。も。と。牽。し。て。為。と。ま。り。林。冲。先。大。小。呼。て。云。梁。山。泊。の。豪。傑。ども  
 一。之。の。あり。汝。儀。友。速。不。子。と。あ。ひ。て。死。と。語。す。べ。一。知。府。これ。と。語。て。逃  
 答。も。及。び。遂。に。李。愈。杜。真。と。携。て。逃。去。ら。り。如。宋。江。先。不。趕。一。め  
 一。六。法。既。飲。殺。先。不。と。人。數。を。引。て。追。り。少。刻。馳。回。り。て。云。ら。ば。一。府。ハ。先  
 一。仍。向。來。れ。也。追。先。ひ。ら。り。先。を。引。回。し。ぬ。宋。江。これ。と。語。て。殺。す。李  
 愈。杜。真。が。絆。と。解。し。め。自。一。慇。懃。不。云。ら。ば。李。大。友。人。先。山。陣。小。上。り



白ひて暫く離れ遊む可なり。李應が云不可。我罪ハ自ら辨ぶ。
此の今又知府と追搦ひし。是れ別法既外の罪にして我ら干り
不しわくは宋に笑て云友司何ぞ肯て試のどき分税と容んや。我り
大友人と棄回らむ。必死禍ひ大友人一敵不及。擄く先山陣に
躲れ白ひて世の釋隘と待て再び回らむ。必死疑して自ら後悔
を亦めあふ。遂に李應杜真と誘引し。三軍逆還して。
梁山泊の下をめぐりし。晁蓋自ら法既外を引て山を降り。
孫人と迎へて日。山陣小上り。別聚義願不於て酒宴と後け。大
飲酌と催し。対李應の法既外に對面して。一々礼早し。李
應又宋に對し。云宋を後友人山陣の救ひと慕て。今日山小上り
先禍と避る小足と。只家内のを安全ら。後今又我ら

友人と放て再び山と。しめぬ。却て感激不務さ。人。兵学究
笑て云大官人。心と安ん。ト更々族ハ。已に山陣小近。
一魂の思地と。大友人。今又何。小住人と。飲し。
李應。是と受て。未だ。終。其の。妻子。眷族。却て。車に。載。李應。
小權。李應。是と。受て。未だ。終。其の。妻子。眷族。却て。車に。載。李應。
云。妻。云。相公。知府。小權。れ。白ひて。後。又。友人。の。巡。檢。
官。を。び。小。住。人。の。劫。取。友。武。百。餘。人。の。去。を。引。て。取。内。の。財。宝。と。收。檢。
我が。車。に。載。て。擄。出。宅。を。火。と。放。て。燒。拂。ひ。ぬ。李。應。い。ま。さ。あ。ん。
大。小。呼。て。驚。し。晁。蓋。宋。に。齊。し。罪。を。謝。して。云。我。嘗。大。友。人。と。山。
陣。に。邀。へ。ん。が。な。か。く。計。を。ひ。ぬ。形。く。罪。を。免。し。人。李。應。を。受。
て。已。と。地。遂。を。修。け。て。山。陣。に。止。ま。し。と。領。當。り。り。宋。に。又



李逵に對して云る。彼知府并に孔目巡檢が所と申す。大  
 友人不承ひ對面すべしとて。於て武寧と申す。小彼知府と假  
 する。蕭讓之。友人の巡檢と假せし。戴宗。楊林。孔目と假する。ハ  
 裴宣之。虞候と假する。金大堅。侯健之。小旗級と假する。は。李俊。張  
 横。李麟。白勝。二人之。李逵。一。是と見ゆ。只呆水。さる。さる。あて。想と  
 申出。と能。う。り。宋江。又。宴と。勅。めて。勅。系の。既。飲。十二人。と。餐。食  
 べし。と。て。別。ち。李。逵。孫。立。孫。新。解。珍。解。寶。鄒。潤。鄒。潤。杜。真。樂。和。時  
 遷。三。娘。顧。大。嫂。ホ。と。傳。て。宴。飲。と。始。め。樂。を。奏。して。大。小。婦。も。り。  
 翌。日。宋。江。王。矮。虎。と。呼。び。云。る。ハ。我。尚。初。清。風。山。小。於。て。汝。に。婚。礼。ハ  
 儀。と。約。す。と。以。ち。いま。ご。け。所。と。遂。ぎ。し。と。公。と。安。せ。さ。り。し。知。小。孝。ひ。今  
 老。父。宋。太。公。一。人。の。女。兒。と。養。ひ。し。故。我。是。と。以。て。汝。に。嫁。せ。ん。汝。是

と。呼。ぶ。べし。と。て。別。宋。太。公。と。傳。れ。ぬ。宋。太。公。自。一。丈。青。と。引。て。廳。上  
 小。座。り。ぬ。宋。江。これ。と。迎。て。云。る。ハ。我。以。前。王。英。に。婚。礼。の。儀。と。約。せ。れ。ぬ。  
 い。ま。ご。け。所。と。遂。ぎ。し。に。孝。今。一。丈。青。と。以。て。王。矮。虎。小。嫁。せ。し。め。んと  
 欲。は。汝。に。嫁。せ。し。め。し。と。今。日。ハ。亦。も。吉。日。良。辰。な。れ。ぬ。一。一。婚。礼。と  
 何。れ。一。丈。青。は。宋。江。が。義。氣。と。見。て。これ。と。辭。す。別。王。英。と。も。ぬ。於  
 て。謝。す。見。蓋。も。び。に。張。豪。傑。於。て。是。と。祝。ん。で。宋。江。が。徳  
 の。り。義。の。り。と。感。ド。り。宋。江。於。て。宴。と。設。け。し。め。已。に。婚。礼。の。儀。と  
 お。假。し。流。石。と。死。せ。て。酒。酌。一。案。に。仰。り。知。に。宋。江。が。店。より。侵。し。地  
 て。報。ド。ら。ハ。鄆。城。縣。の。知。府。雷。横。今。朱。貴。が。店。に。在。り。山。賊。と。候。ひ。ま。ふ  
 と。いま。ご。も。汝。と。さ。ら。に。見。蓋。宋。江。其。利。覚。は。身。と。確。せ。と。大。小。婦。び。三人  
 ひ。と。り。て。お。送。へ。り。



○ 挿翅虎拳とあつて白秀英とあ

梁山泊の三人雷横とお逢へ。宋江先雷横小對して云る。久しく是  
 顔とあせ。是に雲樹の思ひに過りぬ。今日は何の幸ひ小來縁とあ  
 わひし。雷横答て云。宋江に知縣の命と信て。東昌府小懸。今日  
 公用と個し由急。再び鄆城縣小回んとするに。順海尚山の裾下とる。公  
 公にて。起居と候ひぬ。晁蓋と云。先山陣小登つて。鞆の疲と慰め  
 又とて。引て疎中とあり。法政於て對面して。已ににあり。還留  
 す。如に晁蓋又雷横小對して。朱全消息と官れ。雷横答て云。朱全  
 へ。今知縣に愛敬とせ。比日職と改めて。差級とあり。對文。警昌と恙  
 あり。宋江と云。伏して。雷都。順海尚山陣小登り。我が事と一取に  
 我小懸り。白秀英と。雷横。これと稱して云。我一人の老母あり。これ小

依て。嚴命不違ひ。老母没して。後必ず來て。山陣と候ひ。とて。  
 とも。列れと告る。晁蓋宋江再三。命と能く。一。大盤の。美令と送て。  
 候の。表と表し。候て。又。酒と勅めて。列れと。情。雷横。大。小。これ。謝。  
 遂に。山。と。り。晁蓋。宋江。具用。と。び。金沙。灘。まで。送て。一。別。小。及。び。  
 雷横。は。金沙。灘。より。船。小。乘。て。對。岸。小。より。又。鄆。城。縣。へ。馳。行。り。  
 晁蓋。宋江。は。吳。月。と。信。て。山。陣。の。法。職。と。定。む。べ。と。官。れ。は。吳。月。一。  
 これ。と。職。定。し。翌。日。法。の。政。令。と。聚。り。号。令。と。告。り。め。先。孫。新。文。叔。は。先。  
 來。酒。店。を。れ。が。と。蘇。小。下。して。童。威。童。猛。小。替。り。せ。時。遷。と。して。石。雷。が。  
 店。と。ゆ。け。し。ら。樂。和。小。來。賣。が。店。と。ゆ。け。し。め。鄭。天。壽。と。して。李。三。が。店。  
 と。ゆ。け。し。め。は。は。葉。石。の。酒。店。に。於。て。あ。り。世。間。の。善。惡。吉。凶。と。探。り。あ。り。  
 王。英。夫。婦。は。後。山。の。陣。と。あ。り。め。鞆。の。と。と。目。を。金。沙。灘。の。小。陣。を。



童威童猛とてしめ鴨嘴灘の小陣ハ鄒淵鄒涇ふちせ。山岳の大務ハ英倫燕順ふちせ。山岳花面第一の冥ハ解珍解宝ふちせ。第二の冥ハ杜遷宋万ふちせ。大陣の第一の冥ハ劉唐穆弘ふちせ。山南の水陣ハ阮家の三兄弟ふちせ。李夜杜真蔣敬ふ。張猛金帛木のこを堂にせ。陶宗旺薛永ハ梁山泊の内に城登木を築し。孟康ハは玄船と造りて。侯健ハはち。糧塊衣袍旗旗ふと作せ。朱富宋清ハ是宴のこを目せ。穆玄李雲ハ寨柵と造り。蕭讓金大堅ハ文書書ホのこを堂に。裴宣ハ賞罰のこを堂に。外呂方郭盛。孫立。政。鵬。麟。鄧。飛。揚。林。白。秀。ホ。ハ。大。陣。の。八。面。と。も。せ。晁。蓋。宋。江。兵。用。ハ。山。陣。の。中。央。小。居。ハ。花。榮。秦。明。ハ。山。陣。の。右。辺。小。居。ハ。林。冲。戴。宗。ハ。山。陣。の。右。辺。小。居。ハ。李。俊。李。達。ハ。山。岳。に。居。ハ。張。横。張。順。ハ。山。岳。小。

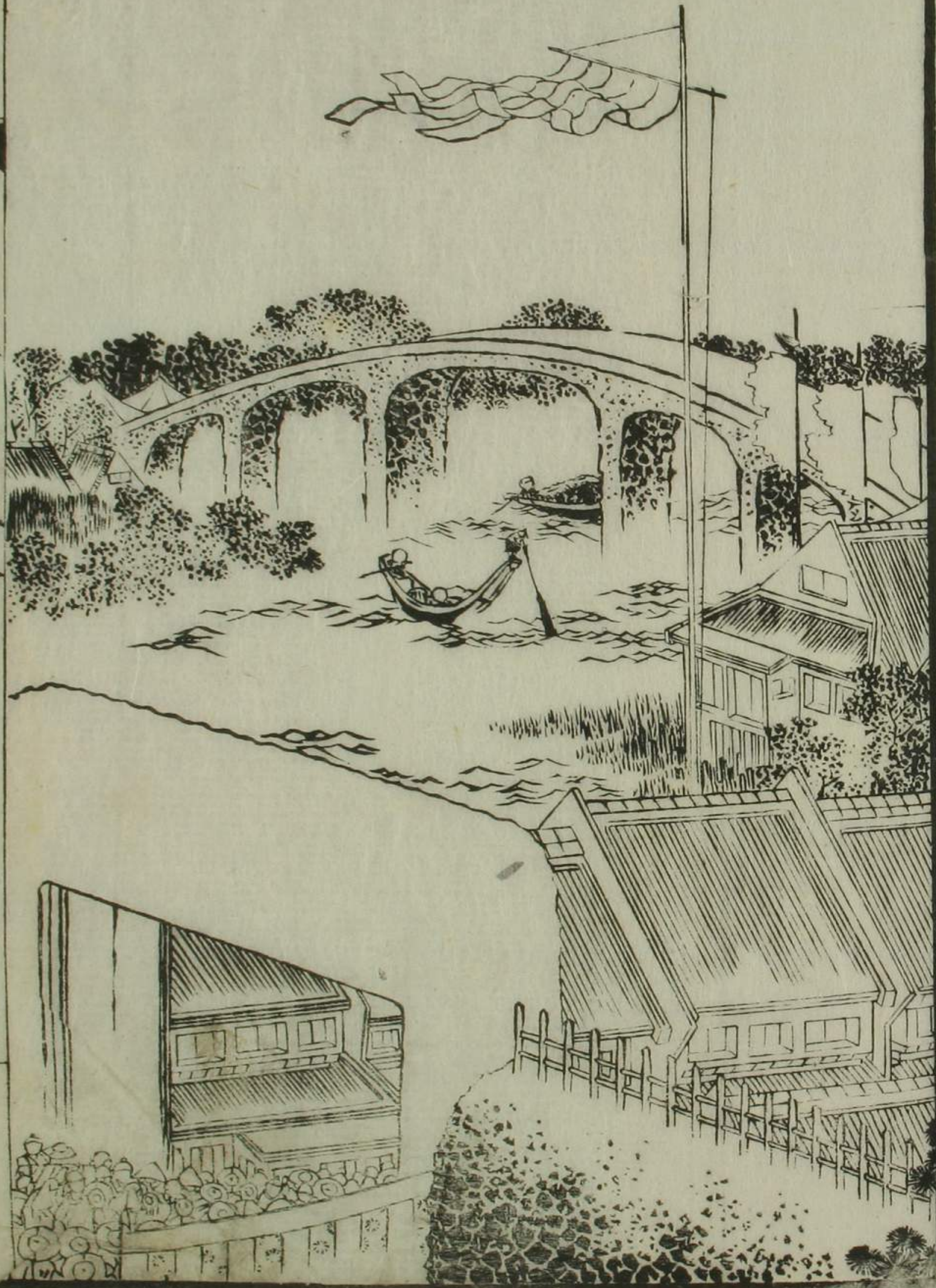
居ハ揚雄ハ秀ハ張義廳とちり。総て一山の政令各々威や急くはね。勤め。嚴密ふえり。扱彼雷横ハ梁山泊と離れて。日の。後。鄆城縣にあり。知縣ふちせ。て。公。用。す。て。小。調。り。し。と。と。稱。へ。ふ。知。縣。く。れ。と。賞。し。先。休。息。す。べ。し。と。暇。と。作。り。り。え。ん。よ。り。日。あ。り。て。雷。横。又。街。小。遊。行。し。る。而。小。鄆。城。縣。の。閑。人。李。小。二。と。云。ふ。に。遇。し。る。李。小。二。は。一。同。て。云。於。政。い。づ。れ。の。日。飯。り。あ。ひ。し。を。雷。横。が。云。我。前。日。回。れ。り。は。る。高。地。子。何。等。の。わ。ら。し。と。も。あ。ら。や。李。小。二。が。頃。日。東。京。よ。り。白。秀。英。と。云。妓。女。一。人。あ。り。り。が。被。舞。と。ま。ひ。歌。と。唱。ひ。顔。及。て。い。は。え。之。彼。今。拘。探。の。内。小。を。て。舞。と。ま。り。於。政。今。日。これ。と。一。覽。し。ぬ。ん。や。雷。横。が。云。我。今。日。は。采。服。を。ら。り。去。来。見。お。せ。ん。と。李。小。二。と。ら。り。拘。探。の。内。に。お。て。これ。と。ら。り。か。の。白。秀。英。果。し。て。後。の。上。小。わ。ら。い。ま。さ。舞。と。初。め。ず。し。と。見。お。の。



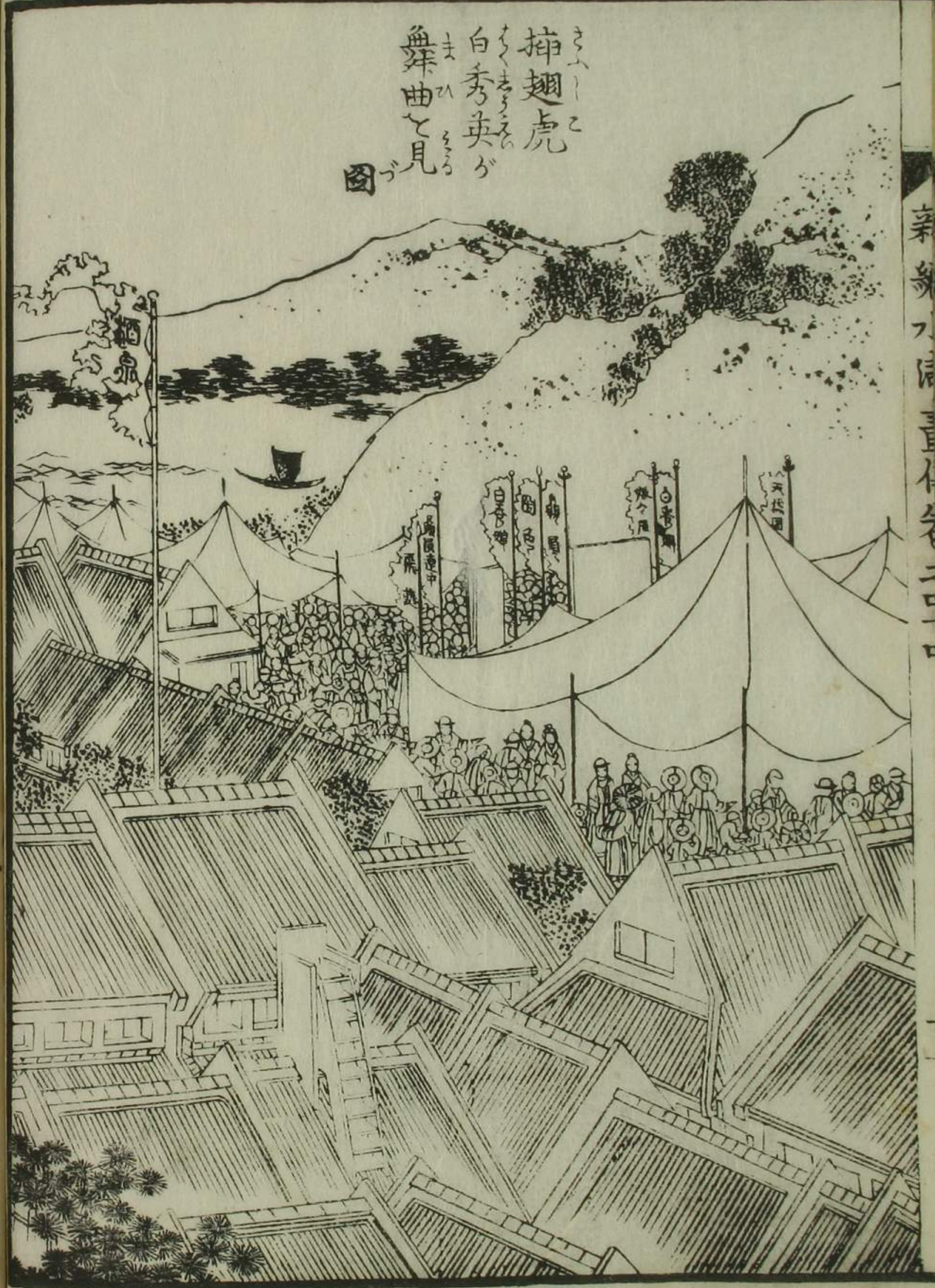
人蔭の口方小聚り群と成隊と搜て早見する小季小二刻雷横と引  
て徳人の赤に隈り出て近くと見物と初る赤に一人の老翁又蔭の上  
出て徳人小向て叫り云るハ素ハ比田系系より高坂ふりより白玉喬と  
ウチ之齡晩年に至て家業もさ由名只女児自秀英と頼て今日白とこ  
以形ふ見物の美人一階の後必を貴族とあそびとて樂意とあつ  
られも彼秀英頼て舞と初めと良久とく早ししれに見物の徳人一階に  
咄と唱来ふりり。彼秀英自秀英と頼て先雷横が赤に舞。雷横これと  
見て後袋の内と探せし。乃ち白秀英小對し云るハ。  
我今日ハ後と勢へ来り。明日争く妻来し。白秀英笑て云友人ハ徳人より  
高先にをまて見ゆ。何と後のみや。雷横これと頼て初ら及と  
初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英

又云友人已に來て舞せ見ゆ。何と後と勢へ来り。乃ち白秀英小對し云るハ。  
我今日ハ後と勢へ来り。明日争く妻来し。白秀英笑て云友人ハ徳人より  
高先にをまて見ゆ。何と後のみや。雷横これと頼て初ら及と  
初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英  
世ざるわい。宣し。明と頼白秀英が友人今日一後と持たぬに。  
何と後と勢へ来り。明日争く妻来し。白秀英笑て云友人ハ徳人より  
高先にをまて見ゆ。何と後のみや。雷横これと頼て初ら及と  
初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英  
自り眼力をさや。只も徳小同て貴と求ふ。友人小向て貴と求ふハ  
恰と梅と帯んで渴と止んと思ふに何と。雷横これと頼て初ら及と  
初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英  
汝誠翁いんと。友人の赤小我と辱し。白玉喬が云汝と辱し。雷  
も何の大幸のわん。汝りこれと頼は速に取と包んで恥と避し。雷  
横これと頼て初ら及と初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英  
喬と頼て初ら及と初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英  
孤回し。わん。初ら及と初めて云るハ。我實に今日ハ後と忘れて勢は豈めて懼む。わんや。白秀英





挿翅虎  
白秀英が  
舞曲と見  
圖





這回知縣又白秀英父子を商地小町下して。活とあさしむると之に  
 時女子白秀英の父が亦傷まれんと見て。大不怒り不速父と引て知縣  
 廳前に立て。引引て去る。尚縣の執取雷横ありに我を急ひ割さへ  
 父を殺ぐ。亦て我を殺しめぬ。取らぬ相公明く不是と交引し。又知縣  
 こんど夢て。心中に如も大不怒横雷横と母房。已に二十杖兼て拘標の  
 辺に示流べしと命と下友を命せきて。雷横と絆先拘標の辺にあり  
 一如不彼白秀英の母と恨び拘標の先の茶坊の内に在て。いんせり。に  
 雷横が母も亦此如にあり。大に哭嘆て去る。我が子雷横尚縣の執取と  
 して。妓女の父と亦さるる。何ぞかくのどき罪に干らん。先を公  
 かくね交引のふと。自ら雷横が絆の索と解し。彼白秀英をれと見  
 て。大小怒り怒ち躍り出て。雷横が母とあひなまで。地上にお倒し。る小。

雷横のり孝順のふるれ。以光系と見て怒り。怒り。捨も鉄石  
 のどき拳と捏て白秀英の眉もと折し。白秀英遂小目口鼻より  
 血と流して。替時のふ死ふり。法の下友大不驚と又く雷横と捕  
 て縣裡に回。知縣ふす。ええ。始終伴小弘る小。知縣まはく  
 怒り。所日雷横と牢中。小怒り。扭尚牢の前級。今又聾公朱全  
 たり。るが。雷横が入牢し。る。とんて。心中を憂と。又いんとする  
 となく。唯酒食とよへて。款待とすすの。となりりり  
 ○又聾公。誤て小衙内と夫ふ  
 翌日雷横が母牢のの辺。ふ来て。朱全に哀と告て。去る。我齡已に七  
 旬にを。胡夕。又雷横とんて。心と慰め。る小彼不幸。罪と  
 犯し。我んの憂い。是と。是と。は。新級。旧日の交り。と。願と



わいて。憐愍と垂文。朱全と云老娘。寫しく心と安んじて。甲り。更に向後。我自ら雷劫と憐。何とぞ計とて。一命と救ふべし。雷横が母。是とて。まらふ。雷横が肯て。雷横が一命と救ひぬ。是れ。別再造の意。いよく計と施し。ぬく。遂に別れて。ぬり。朱全。雷横と救ふ。計と思案して。終日沈吟し。ぬれ。更に良と策を。まら。し。唯自ら。全と報と出。て。縣裡の法役人。小極。送る。暗に雷横が一命と救ふ。と。朱全。知縣。考。小朱全と。朱全。か。ぬ。て。容ると。し。この。這回。已か。心。毫の。妓女と。教され。冤骨。髓。小。徹り。討。さ。る。白。玉。喬。只。顧。松。と。女。児。が。仇。と。報。し。ぬ。ぬ。と。哀。と。ぬ。れ。ぬ。知。縣。別。法。役。人。と。商。儀。して。雷。横。を。牢。の。日。數。六。十。日。の。限。満。る。青。州。府。小。送。て。知。府。が。交。引。に。ぬ。れ。ん。と。儀。定。して。已。に。日。限。も。満。り。ぬ。知。縣。別。ち。朱。全。小。令。して。雷。横。と。青。

州に送。せし。朱全。自ら。十。五。六。人。の。去。を。引。て。雷。横。を。監。押。して。遂に。鄆。城。縣。と。離。れ。て。十。里。を。行。り。馳。馬。に。は。迎。に。一。軒。の。酒。店。有。り。朱。全。於。て。去。を。ホ。と。酒。店。の。内。に。入。り。て。酒。を。酌。し。ぬ。自。ら。雷。横。と。引。て。人。を。引。た。所。に。別。雷。横。が。頸。枷。と。除。き。て。ま。ら。ぬ。賢。才。子。く。ぬ。に。回。て。老。母。と。ま。り。何。因。小。女。も。落。り。ぬ。我。自。ら。女。に。替。て。友。司。に。出。べし。雷。横。が。云。我。の。父。と。適。れ。ぬ。必。定。長。兄。の。身。の。上。に。禍。ひ。ぬ。ぬ。我。い。く。ん。ぞ。これ。と。思。ひ。ん。や。朱。全。云。賢。才。の。殺。し。ぬ。ひ。妓。女。の。知。縣。が。旧。毫。と。る。不。依。り。知。縣。源。く。賢。才。と。冤。と。今。青。州。府。小。送。て。命。と。候。せ。んと。思。ふ。り。青。州。府。小。送。て。賢。才。遂。に。一。命。と。害。せ。ぬ。我。今。賢。才。と。逃。して。禍。と。免。れ。ぬ。よ。も。死。罪。は。ぬ。ぬ。況。や。我。を。友。親。と。し。て。妻子。も。な。れ。ぬ。賢。才。の。為。に。一。命。を。替。ふ。も。又。憂。る。に。足。に。賢。才。



再び多雲と休てよく馳行す。雷横これと嘆て大い小感心。遂に  
 朱仝小別れ小海より逃甲。忙しく老母と携て梁山泊へと急ぎさる。  
 叔朱仝は去去ホレ若て雷横が走りたること知りし。去去大い驚き急  
 小逃蒐べしと強勅しる。知に朱仝詐て平日をり程予し。已に遠く逃  
 延くんと男小対小きて法の去去と引て雷横が家に馳行多に。雷横ハ  
 不強て罪と法に知縣の本朱仝と急し。其を毛と助けんと思ども。  
 白玉喬再之強て云り。朱仝ハ京東雷横と交り厚き小より故を逃  
 くらに疑ひな。影くハ相公明小察し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 城小馳て。知府相公小強べし。知縣これと嘆て公中不驚き。遂に朱仝が  
 罪と其のま小陳て。曹州城小送りし。知府即日朱仝と二十枝策て

涇州に流しり。涇州の知府。朱仝が容貌凡しく。其を急し。其を急し。其を急し。  
 脱ひ。小衙内小るめて懇情と垂られ。朱仝も又知府が恩と感し。公  
 と修け身と急して。胡夕急く。其を急し。其を急し。其を急し。  
 何由急雷横と逃して。罪と急し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 と逃さんや。只強てこれと逃し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 と殺しぬ。朱仝答て。雷横白秀英と殺し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 公知府又問ん。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 公家より。知府急子。小衙内朱仝と急て抱けく。其を急し。其を急し。其を急し。  
 全列ち小衙内と抱き。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 顔と急つて。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。  
 て慰め。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。其を急し。



られを慰め来れ。朱全令と事り。於て小衙内と抱て府前に出。時を  
 慰めて再び四りし。小衙内と抱て。中へ朱全と抱て。其  
 列ち酒食をのみ。朱全と事り。其後。子等。汝と抱れんと事  
 を汝等。彼と慰し。朱全と相公の命いんと敢て違くとわらんや  
 とて。別ち。日と始として。毎日小衙内と抱て。街に出。彼小遊りして。小  
 衙内と慰めり。其後。七月十日。夜。盂蘭盆大齋。日。小衙内  
 此に。天下。一回の。年例として。方々に。焼火と點下。寺々に。法事と後け。  
 附。雨。熱なり。朱全。又。小衙内と抱て。其地。義寺の。肉。小  
 入て。法事と。入り。めり。時。二。文。に。近し。わ。小。料。人。や。法。務。彼。雷  
 撲。来て。朱。全。と。抱。て。朱。全。と。ん。と。入。小。衙。内。と。抱。て。先。小。衙。内。と。抱。て  
 の。上。に。却。一。雷。遂。に。雷。撲。と。若。に。後。に。来。て。別。回。て。云。復。才。保。其。今。宵

此。小。衙。内。の。一。も。雷。撲。と。云。我。彼。日。也。兄。小。脚。け。ら。子。速。老。母。と。ご。り。に  
 梁山泊。中。と。て。身。と。養。一。其。兄。の。恩。德。と。後。て。鬼。天。王。宋。公。明。に。呼。め  
 一。六。法。改。修。益。感。激。濟。う。い。ひ。後。来。と。具。学。究。と。と。馳。て。去。兄。と。傍  
 一。ひ。朱。全。と。云。具。軍。師。今。何。れ。の。如。に。わ。ら。や。と。い。ま。ご。も。後。と。ご。り。に。具。学。究  
 と。い。ひ。如。小。衙。内。と。朱。全。に。ま。ま。え。各。礼。早。り。し。六。朱。全。先。言。て。云。軍。師。從。来。美  
 る。と。也。具。和。善。と。云。朱。全。に。望。を。り。山。陣。小。法。改。修。再。と。去。兄。と。濁。悲。に  
 今。宵。朱。雷。劫。取。と。共。に。地。に。舞。り。ぬ。ら。唯。去。兄。と。山。陣。に。邀。へ。日。と。く。大  
 義。小。衆。ん。が。為。之。怒。く。は。去。兄。と。の。山。陣。に。光。臨。有。て。鬼。宋。友。人。の。屋。と  
 波。一。の。友。朱。全。良。久。一。沈。吟。して。云。る。具。先。生。と。れ。の。こと。と。云。ふ。よ。と  
 る。ん。若。人。と。て。これ。と。夢。の。一。う。る。雷。撲。向。に。重。罪。を。犯。し。ぬ。る。と。又。也  
 我。義。と。い。て。これ。と。逃。し。る。小。身。と。倚。ん。づ。ぬ。れ。ぬ。也。山。陣。に。よ。つ。て。命



と多るとわのハ。是を可ん。朱も又雷撲と逃。一罪小依て以滄州に流  
され。一。十分の艱難と往。一。支年の内。入。放。今。回。再。家  
風。死。一。豈。山。上。自。世。通。人。吳。先。生。雷。動。死。  
ら。山。小。甲。更。一。以。小。在。網。一。引。出。一。ひ。る。後。悔  
も。も。益。わ。し。雷。撲。が。云。長。兄。自。大。徳。と。有。ち。ひ。て。庶。人。の。下。に  
居。る。大。丈。夫。の。取。為。小。わ。は。官。一。一。明。ら。ふ。れ。を。察。一。更。死。ん。や。見  
宋。更。改。然。且。昔。長。兄。の。徳。と。慕。ひ。小。に。速。に。山。陣。に。上。り。ひ。て。豪。傑。の。交。り  
と。樂。之。更。人。朱。全。が。賢。才。何。れ。我。一。片。の。好。意。と。忘。れ。却。て。我。と。不  
義。小。踏。ん。と。欲。す。所。や。吳。用。が。云。長。兄。交。一。て。山。陣。に。上。り。ひ。ば。我。軍。  
速。に。油。を。し。て。三。人。口。一。一。樞。の。上。小。あり。朱。全。別。ち。小。衙。内。と。自。る。  
小。も。以。知。よ。り。ざ。り。し。朱。全。大。小。等。と。亦。後。た。た。と。み。ね。り。に。雷。撲

が云長兄小衙内と尋ひあつてさうれ。我実小忠旋風李逵と謀へあり  
らるが。今長兄山陣に上るまじと云ひし。と。夢。て。彼。必。定。小。衙。内。と。朱。  
多。て。馳。け。つ。〜。ん。朱。全。と。れ。と。夢。て。作。天。一。と。壘。に。城。介。に。馳。出。て。二  
聖。符。を。送。り。一。無。に。忠。旋。風。李。逵。小。衙。内。と。殺。し。て。林。の。内。より。呼。り  
云。ら。ハ。朱。全。の。子。〜。林。の。内。小。入。て。小。衙。内。と。殺。し。て。已。は。林。の。外  
に。去。り。出。ぬ。朱。全。林。の。内。小。入。て。見。ら。ん。小。衙。内。砍。殺。さ。れ。て。去。〜。朱。全  
忽。然。と。し。て。大。小。怒。り。双。の。袖。と。捲。起。て。林。の。外。に。躍。り。出。彼。三。人。の。首  
と。奪。り。に。馬。前。雷。撲。へ。逐。に。去。〜。李。逵。一。人。遙。の。處。に。在。て。二。三。の  
斧。を。揮。ひ。汝。速。に。來。て。我。と。待。負。と。交。せ。よ。と。呼。り。〜。朱。全。大。小。怒。  
更。小。信。せ。て。跳。あ。る。李。逵。是。と。見。て。急。小。逃。行。一。向。怒。り。〜。朱。全。を  
罵。り。つ。ら。に。朱。全。へ。の。り。〜。怒。り。不。持。す。我。汝。と。殺。さ。て。去。〜。と。息。と。も



續つが追おひしし去さ濁なくく天てん色しき明めいかりかり。李り達たつ初はつめめのの卒そつとと尋じん朱しゆ於お於お小せう
  
 来きくく小せう衙ぎや内ないがが仇あひとと報ひらんんややとと已すでにに大おほ座ざのの内ないにに逃のがれれをを朱しゆ全ぜんここれれとと
  
 追おひてて追おひ入いるるにに一ひとのの官くわん人にんをを出だしてして向むかひひにに汝にをを推おすすれればば喜こぶぶにに
  
 我われ家けにに跑はりり入いるるやや。朱しゆ全ぜんはは女に人にん。ままららににおお親おや父ちちにに答こたへへのの人にんおおののどど。是これ則すなはちち
  
 小せう旋せん風ふう采さいをを朱しゆ全ぜん瓜か耕かうとと見みてて忙いそがが。礼れいとと祈いのりりとと云いふふ。朱しゆ全ぜんのの采さい、鄆おん城じやう縣けんのの
  
 第だい級きやく朱しゆ全ぜんとと云いふふ。向むかひひにに罪つみとと犯とつつてて以もつてて滄そう州しゅうにに流ながれれ來きりりぬぬ。昨きの夜ふ知ち府ふ
  
 のの宅たく子し小せう衙ぎや内ないとと抱かかりりてて法ほつ事じとと見みてて立たりりにに系けい旋せん風ふう李り達たつ小せう衙ぎや内ないとと殺ころすす。
  
 はは全ぜん小せう逃のがれれ入いぬぬ。解とくくハハ大だい友ゆう人にんカカとと踏ふみみてて握にぎりりししめめ。采さいをを云いふふ。兄あに果くわいしてして
  
 吳ご解かい公こう小せう衙ぎや内ないのの中ちゆうへへ先まづ内ない小せう入いりりてて坐まりり。父ちち朱しゆ全ぜん同どうてて云いふふ。大だい友ゆう人にんのの言こと母はは大だい
  
 名なとと呼よびび及およべべりり。今いま日にち忠ちゆう信しんをを教しへへてて授まけけすす。莫むく太たのの幸さいひひ。采さい進しんがが云いふふ。采さいもも亦また
  
 吳ご解かい公こうのの大だい名なとと呼よびび及およべべりりとと。遂すなはちち小せう延えんてて後こう堂どう小せう入いりりしし。知しれれ。朱しゆ全ぜん又また

同どうてて云いふふ。系けい旋せん風ふう李り達たつ吳ご宅たく小せう逃のがれれ入いるる。采さい大だい友ゆう人にんとと感かん徳とくをを有ありりししんん。
  
 遮しや莫むく被ひとと中ちゆうへへとと采さい小せうとと父ちち采さいをを云いふふ。我われ好このんでて天てん下かのの豪ごう傑けつとと交まりり
  
 とと結むすぶぶ。罪つみとと犯とつつてて一ひとのの名なをを毎まい度ど我われ家けとと教しへへてて逃のがれれ。我われ是これをを秘ひしてして
  
 時ときをを解とくく。友とも見みるるもも我われ家けをを捜さがしし。能よくく。頃ころ日にち我われ一ひとのの旧きゆう友ゆう及およ時とき雨あめ
  
 采さい公こう明めい梁りやう山さん泊はく入いりりてて網あみをを避かけけられれるる。采さい下かへへもも旧きゆう友ゆうとと云いふふ。
  
 おおてて一ひとのの密ひそ書かきとと采さいがが方かた小せう送そうつつてて采さい下かのの鳴なりり。別べつ吳ご学がく究きゆう雷らい横ぎやう李り
  
 達たつ初はつめめ私し宅たく小せう衙ぎや内ない先まづ達たつてて采さい下かとと山さん陣ぢんにに邀まねんんとと云いふふ。采さい下かにに
  
 釋しやくしてて采さい元げんををりり。由よし故こ云いふふ。李り達たつ小せう衙ぎや内ないとと殺ころすす。采さい下かにに
  
 采さい下かのの故こをを絶たつつてて采さい下かとと山さん陣ぢんにに邀まねんんとと云いふふ。采さい下かにに
  
 とと報ひらんんとと教しへへるるがが由よし云いふふ。采さい下かにに山さん陣ぢんにに邀まねんんとと云いふふ。采さい下かにに
  
 一ひととと引ひききてて屏びん風ふうのの背せい後ごよりよりをを采さい下かにに邀まねんんとと云いふふ。采さい下かにに再また三さん罪ざいとと射やすす。



云伏して居し。ハ朱全忠亦其罪を免し。又晁蓋宋江等の  
の命令を遂てかくの計と知りぬ。晁蓋山陣によりぬ。晁  
宋江自其計を遂て。朱全忠下木の怒志を感激す。又  
之を小衙内を殺し。之を不仁なりとて。晁蓋の  
小衙内を殺し。之を不仁なりとて。晁蓋の  
怒りて。晁蓋を山陣に迎へん。之を  
達と呼ばし。乃れ李逵地上に跪て罪を謝し。朱全忠  
怒りて。晁蓋を山陣に迎へん。之を  
軍用雷榜一齊小座と立て。朱全忠抱き住め。只願罪を謝し。之を  
抱かれ。朱全忠又いよく。晁蓋を山陣に誘引し。之を

一つの屋を准。晁蓋を山陣に下す。軍用雷榜一齊の屋に立て。晁  
蓋とい千百の屋を。我肯てこれ准。晁蓋は速に。晁蓋  
全忠は。我を准んとす。彼晁蓋旋風。李逵を殺して。我小  
え。乃れ。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
これを。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
肉を害し。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
友人の首を。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
又。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵  
三人は。晁蓋は。我を速に。晁蓋は。李逵





賞錢の札と  
うららるる

滄州知府  
賞錢の札と  
うららるる



滄州の知府  
小荷内の  
死と悼む  
図

権原

渡草



久上は榮大友人の教に違下として三日三人榮を引連れおき一六榮をへ家人竹多従へて関外まで送りたり

○李逵殷天錫と死す

時不兵用李逵不命して云汝は先榮大友人の敵不逗留して朱全兄の怒りと息ありと諍て再び山陣に回入し必ず事と惹出して人と患しひつとあらんと遂に列れて梁山泊へとを發せば本をの李逵と共に再びお宅不叫なり扱三人の志の夜と日不續て急しと日めり朱全が酒席より先山陣不入と馳て往むしおれに晁蓋宋江自ら法政飲と引て朱全と迎へ遂に山陣の聚義廳不至て法豪傑一と對面し怒り酒宴と設けて朱全と餐食し氣皆悦びさるいありり扱又滄州の知府へ夜三更の時と傳られ朱全文

小田らざりしうへ人許多に方小分を引取られちり消息あつた回急翌日又人と馳てあつめりおれ小衙内林の内に斬殺されて居りおれ若りれ知府を告げて大不驚り親自林の内にお入り小衙内が屍骸見えて忽ち地上に倒れ哭悲しく日公文と布々に穿し遍く朱全と搜せり賞錢の札と玉郡を乞ふ小銀しめり。借又急旋風李逵へ榮をが家へ一月作り逗留して立ち居るおれ一日一人の飛御忙しく馳來て榮進不書簡を呈し榮を是と扱懐して大不驚り己小かくの次第小於ては我自ら馳行べしと證さるると李逵これと問て大友人何おの事出来てお周章ありや榮を乞ふ我一人の叔父榮皇城と云ふ今唐州に立ち居るが彼おの知府を廉が妻舅殷天錫と云ふに花園で毒まんとして痛くおれ遂に病となり朝夕の存亡定がら死す小ぢんと



なる。叙父の京來自子なり。忠臣の忠臣。我と申す。遂に云と命せんとの  
 事。我自ら住まん。恨み。李逵が云。宋も大友人。小従て。彼地  
 小住ん。可き。んや。宋をが。賢才。肯て。来り。わ。我。宣。く。日。往。す  
 べし。と。別家。僕。數人。と。携。其。聖。日。又。更。の。前。後。不。敵。と。出。出。ふ。る。る  
 唐州。と。云。と。一。日。わ。宋。皇城。が。取。に。取。り。宋。を。先。肉。入。て。叙  
 父。が。病。疴。と。ん。忽。ち。歿。と。棄。て。大。小。哭。さ。り。れ。皇城。が。曉。妻。出。て。宋。を  
 勅。めて。云。大。友。人。遠。海。と。来。り。わ。ひ。鞍。馬。の。疲。も。わ。く。ん。ん。哭。さ。と。思。て  
 歌。更。宋。を。これ。と。謝。し。押。て。この。死。り。と。同。ひ。り。る。不。曉。妻。を。と。云。南。地  
 の。知。府。も。廉。ハ。乃。ち。東。京。の。太。尉。も。休。が。姪。も。あ。る。休。が。持。威。と。彰。で  
 忠。虐。と。り。ひ。割。へ。妻。舅。殷。天。錫。と。云。と。携。へ。来。て。民間。と。悩。む。彼  
 殷。天。錫。尚。年。小。志。と。云。と。妯。夫。も。廉。が。勢。と。借。勅。不。勅。人。と。害。し。て

浪。中。威。勢。と。據。ふ。彼。頃。日。我。家。に。花園。水。亭。あり。風。系。好。と。と。及  
 び。別。二。三。十。個。の。人。を。引。て。我家。に。れ。れ。入。擅。に。我。一。家。と。追。出。し。て  
 已。が。任。不。以。む。んと。傍。若。吾。人。の。非。及。と。云。と。皇城。彼。不。對。し。て  
 云。ぬ。わ。我。家。の。高。朝。の。金。枝。玉。葉。と。云。と。左。祖。皇。帝。より。丹。書。鉄。券  
 と。賜。て。叙。不。傳。へ。し。人。敢。て。我家。と。欺。ば。汝。あ。り。に。我。一。家。と。追。出。し  
 て。居。宅。と。棄。え。んと。す。何。の。非。及。と。云。と。良久。く。争。論。あり。し。無。れ  
 彼。遂。に。奉。と。奉。て。皇城。と。あり。由。急。皇城。是。と。懐。り。を。日。より。病。起。り  
 飲。命。を。以。服。茶。と。詭。ち。飲。ち。死。と。傳。の。と。云。今日。幸。ひ。大。友。人。の  
 來。條。と。慕。り。し。代。我。一。家。の。男。女。郎。の。力。と。注。り。い。ん。を。宣。指。に。商  
 議。し。又。宋。進。ぐ。云。婦。々。速。に。憂。と。休。只。良。医。と。傳。て。療。治。と。加。え  
 叙。く。若。再。び。殷。天。錫。小。欺。れ。ゆ。と。わ。く。我。家。の。丹。書。鉄。券。と。云。と。



彼と理論せん。彼ひ天子の所希に出るを。何ぞ怖るこゝろんやとて。  
 再び外面不出て李逵並に衆人ホに對して。始終の根子と語り  
 られ。李逵忽ち躍り起て大に怒り。彼いんぞ天下の人とならば。番  
 勃とるや。我喜ひに二つの斧と携われ。先彼が頭と赤髯と。其  
 後列に高嶽せば可る。斧を云賢牙先惠と息を彼今も  
 休が権威と借て人と欺くも。我亦も鉄券と借へられ。天子の  
 所希不於ても更に怖る知る。先彼と饒して。勃靜と窺ひぬ。  
 李逵云鉄券も太平の世に用ひらる。今朝廷よの奸臣佞人  
 克減して。天子と諷く。何ぞ只鉄券のそと教んや。我先般  
 天錫と殺し。世の爲に一害と除くべ。宋を云我自ら彼を  
 と伺ひ賢牙と用ひ。宋を云我自ら彼を。我子速知。一めん。その内へ先房裡

に在て歌ふとい。まさにも強き。一人の下女忙しく走り。出て  
 宋を云。汝られば宋を又内へ入て皇城が希あり。乃に皇城を  
 酒く宋をに對して。云々。汝の義氣昂く。先祖と死す。あ  
 ざる豪傑あり。我を殺し。て般天錫ホ死せ。汝の骨肉の  
 情と思ひ。親自宋系以上。般天錫が仇と。天子に訴へ。我  
 爲に以寛と。吾と。彼。我九泉の下。於ても。汝を孝養  
 と感せん。我送云。是の之。必ず忘る。と。遂に息殺り。宋を  
 是と。且て大に笑さ。阿嬪再三。勃めて云。大友人。先哭と。思て。  
 後幸と高嶽。一々宋を云。我這回。鉄券と携る。急に人を  
 馳て。是と。近く。宋系。上て。我親自朝廷。不訴あり。叙父の仇と  
 報し。付寛と。吾んと。先賢と。棺槨。小收め。皆孝服と。若し。一家。於



悲あはれざるあはれへあはれるあはれるあはれるあはれ。既すでにあはれてあはれ第だいに三日あはれ不あはれ動あはれりあはれるあはれ如ごとくあはれ。彼あはれ殷あはれ天あはれ錫あはれ一あはれ疋あはれのあはれるあはれ小あはれ業あはれ。二あはれ三あはれ十あはれ個あはれのあはれ人あはれとあはれ後あはれへあはれ去あはれりあはれ。柴あはれ皇あはれ城あはれがあはれ門あはれ前あはれにあはれ在あはれりあはれ。柴あはれをあはれこれあはれとあはれ言あはれてあはれ門あはれ辺あはれにあはれ出あはれづあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれもあはれ柴あはれをあはれにあはれ回あはれてあはれ。汝あはれハあはれ氏あはれ衆あはれのあはれ准あはれりあはれ。柴あはれ進あはれ答あはれてあはれ云あはれ。柴あはれハあはれ皇あはれ城あはれがあはれ姪あはれ。柴あはれ進あはれとあはれ云あはれ。之あはれをあはれ殷あはれ天あはれ錫あはれがあはれ云あはれ。我あはれ前あはれ日あはれ皇あはれ城あはれ小あはれ家あはれとあはれ空あはれてあはれ出あはれしあはれ。命あはれトあはれ曰あはれ。何あはれぞあはれ我あはれ云あはれ小あはれ違あはれくあはれやあはれ。柴あはれをあはれ云あはれ。前あはれ日あはれ皇あはれ城あはれ重あはれ病あはれ。凡あはれ卧あはれるあはれ。老あはれをあはれ以あはれてあはれ延あはれ引あはれ不あはれ及あはれ。如あはれもあはれ皇あはれ城あはれ終あはれにあはれ没あはれしあはれ。一あはれ七あはれ日あはれとあはれ経あはれるあはれ。如あはれもあはれ移あはれりあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれがあはれ云あはれ。我あはれ已あはれにあはれ三あはれ日あはれとあはれ限あはれぬあはれ。何あはれぞあはれ再あはれびあはれ三あはれ日あはれとあはれ死あはれさんあはれやあはれ。汝あはれもあはれ我あはれ云あはれにあはれ違あはれをあはれ忽あはれちあはれ頸あはれ枷あはれにあはれ加あはれへあはれ。一あはれ百あはれ杖あはれとあはれ策あはれべあはれ。柴あはれをあはれ云あはれ。汝あはれ如あはれくあはれとあはれ言あはれれあはれ。我あはれ亦あはれハあはれ先あはれ朝あはれのあはれ末あはれ業あはれとあはれてあはれ。亦あはれもあはれ太あはれ祖あはれ皇あはれ帝あはれよりあはれ賜あはれりあはれ。凡あはれ決あはれ券あはれありあはれ。率あはれ亦あはれにあはれ來あはれてあはれ。後あはれ悔あはれするあはれ。とあはれ言あはれれあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれがあはれ云あはれ。汝あはれいあはれふあはれくあはれ決あはれ券あはれありあはれ。凡あはれ今あはれこれあはれとあはれ出あはれしあはれてあはれ我あはれ小

見あはれしあはれ。めんあはれやあはれ柴あはれをあはれ云あはれ。決あはれ券あはれハあはれ今あはれ我あはれがあはれ滄あはれ州あはれのあはれ居あはれ宅あはれなりあはれ。我あはれ近あはれくあはれこれあはれとあはれ言あはれ。若あはれしあはれてあはれ汝あはれ不あはれせんあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれ大あはれ小あはれ怒あはれてあはれいあはれふあはれ。汝あはれ何あはれぞあはれああはれのあはれ云あはれとあはれ言あはれふあはれやあはれ。我あはれ何あはれ人あはれのあはれ末あはれ業あはれとあはれてあはれ。我あはれ豈あはれ忍あはれぶあはれんあはれやあはれ。とあはれ遂あはれにあはれ人あはれ中あはれにあはれ命あはれトあはれてあはれ。柴あはれ進あはれとあはれ敵あはれしあはれ。人あはれとあはれ言あはれ。如あはれもあはれ旋あはれ風あはれ。李あはれ達あはれ雷あはれのあはれ如あはれくあはれ吼あはれてあはれ走あはれりあはれ。如あはれもあはれ殷あはれ天あはれ錫あはれとあはれ言あはれ。余あはれよりあはれ杜あはれ落あはれしあはれ。凡あはれ二あはれ三あはれ十あはれ人あはれのあはれ漢あはれ子あはれをあはれ一あはれ度あはれ不あはれ弛あはれ聚あはれりあはれ。李あはれ達あはれ亦あはれ不あはれ死あはれ。凡あはれ七あはれ八あはれ人あはれおあはれ倒あはれしあはれ。皇あはれ帝あはれのあはれ者あはれをあはれ。凡あはれ面あはれ八あはれ方あはれ追あはれ拂あはれひあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれとあはれ獄あはれへあはれ汝あはれ非あはれ乃あはれとあはれ答あはれ。劔あはれ柴あはれ皇あはれ城あはれもあはれ汝あはれおあはれれあはれ。凡あはれ病あはれ附あはれてあはれ死あはれ。汝あはれのあはれ世あはれのあはれ惡あはれ魔あはれとあはれ云あはれべあはれ。我あはれ一あはれ拳あはれとあはれ打あはれてあはれ汝あはれとあはれ云あはれ。凡あはれ決あはれ提あはれのあはれ如あはれくあはれ。我あはれ一あはれ拳あはれとあはれ擧あはれてあはれ。凡あはれ一あはれ眉あはれ間あはれとあはれおあはれれあはれ。殷あはれ天あはれ錫あはれ忽あはれちあはれ血あはれをあはれ吐あはれきあはれ死あはれすあはれ。凡あはれ柴あはれをあはれ李あはれ達あはれとあはれ引あはれてあはれ。後あはれ堂あはれにあはれ在あはれりあはれ。刑あはれ商あはれ。後あはれとあはれ云あはれ。凡あはれ賢あはれ才あはれ今あはれ汝あはれをあはれ殺あはれしあはれ。凡あはれ一あはれ刻あはれ皮あはれ府あはれよりあはれ。土あはれをあはれ多あはれくあはれ來あはれてあはれ。賢あはれ才あはれとあはれ搜あはれしあはれ。凡あはれ程あはれとあはれ云あはれ。



る一刻も怠り梁山泊へ逃回り更李逵と云我り奔り必す大友  
人の身の上に禍ありと云我れは疾巻て獲るる由は禍  
を免るるに下へ推れり奔り更李逵と云に於て二つの斧と掲げ遂に  
後門より奔り更梁山泊へ馳往り

編者いもひ巻の小荷内と殺し棄るる虎牙の牙小世に毒と流す  
強と弱と弱と強とを操命三郎石秀も豪傑の好む所なり  
晁蓋宋江も人々朱全が活命の恩と情し我れを報んとて山陣へ  
邀んと欲ふたもるべしきか小東も初め小児と棄て林中へ  
害し捨ては朱全より今日の義小依てその林中へ入り小荷内の屍の  
傍へ自害せは晁蓋宋江が活命の恩と情し朱全と殺せし幾十歳も  
と短く小児と書し殘思を及の不及と豪傑の志なりとせば猛

虎と豪傑と月夜とぞ嗟くべし又云通宿忠義水滸傳より朱  
全小父母の死にて家族も山陣へ迎へるる条渡せり

か  
し  
な  
ら  
ぬ

上  
す  
け  
り

袂  
の  
か  
た



新編水滸画傳卷之四拾二 畢



大阿是也 備故時  
壽月五日 命  
大 賜 給 印